

# 若年性関節リウマチの臨床的研究

班員：鹿児島大学医学部小児科教授	寺	脇	保
研究協力者 信州大学医学部小児科教授	赤	羽	太 郎
横浜市立大学医学部小児科講師	植	地	正 文
福岡大学医学部小児科教授	小	田	禎 一
宮崎医科大学小児科教授	早	川	国 男
日本大学医学部小児科講師	藤	川	敏
杏林大学医学部小児科助教授	渡	辺	言 夫

## 研究目的

若年性関節リウマチ Juvenile Rheumatoid Arthritis (以下 JRA と略) は、小児科領域における難病の 1 つであり、その発病機転も明らかでない。

われわれ班員及び研究協力者は多年に亘って JRA の基礎的研究並びに臨床的研究に従事し、殊に治療法の改善に努力してきた。

昭和52年度本研究班が組織されたので3年間を一応の目標として特に本症の臨床的研究に重点をおき、先ず本

邦における JRA の実態を明らかにし、診断基準を確立し、更に治療法の改善と統一見解をはかることを目的としている。なお余力があれば JRA の発病機転にも力を致したいことを申し合わせた。

そして初年度である本年は次の目標をたてた。

- (1) 全国実態調査
- (2) 病像の検討
- (3) 治療法の検討
- (4) 発病機転の研究

以下、班員、研究協力者の成績を報告する。

# 若年性関節リウマチの全国実態調査

## (第一報)

鹿児島大学医学部小児科 寺 脇 保 銚之原 昌

### I. はじめに

本年度より「若年性関節リウマチの臨床的研究」班が組織されたので、まず本症の患者の実態を把握する目的で、全国的規模の疫学調査を行った。

### II. 対象および方法

対象は、昭和52年1月1日より12月末日までに診療した患児を対象とした。

調査病院は、厚生省児童家庭局、昭和49年発行の小児慢性疾患実態調査に掲載されている主要病院と全国大学

病院の計1,363で調査された。

第一次調査として表1のような調査用紙と葉書1枚に患者氏名、性、生年月日の記入欄を印刷して同封し、調査病院の院長または小児科部長宛に郵送した。

若年性関節リウマチ (JRA) の診断基準は、本邦で確定したものはないので、今後の本研究班の一つの課題とすることになり、今回の調査では、表1のような参考症状を記して調査することになった。また、アレルギー性亜敗血症 (SSA) は、JRA の一型という考え方もあり別項に対象をもうけて調査した。

表 1

初冬の候、御健勝を祝します。  
 厚生省の小児慢性疾患に関する大研究班のもと、今回新たに若年性関節リウマチ (JRA) の研究班が発足致しました。不肖私がそのお世話を命ぜられました。  
 最近、小児膠原病の中で最も増加しつつある本疾患は、原因不明で未だ治療法も確立しておりません。  
 そこで本研究班は、まず全国における疫学調査を行い、患者数の実態を把握したいと思います。つきましては、御多忙中誠に恐縮でございますが、諸先生に次のような御協力をお願いする次第であります。  
 すなわち、別項のような参考症状を呈する若年性関節リウマチ (JRA) の患児とアレルギー性亜敗血症 (SSA) と診断された患児で昭和52年1月から現在までに経験されたものを、同封の葉書に記入のうえ、御返送頂きますようお願い申し上げます。

昭和52年12月

厚生省若年性関節リウマチ研究班  
 班長 寺 勝 保  
 (鹿児島大学医学部小児科学教室)

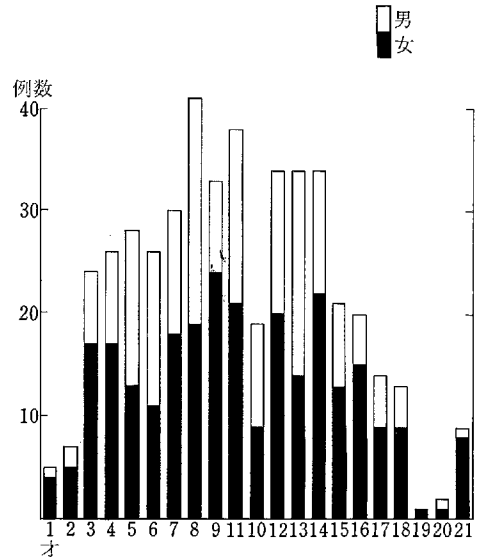
若年性関節リウマチ診断の参考症状 (JRA)

1. 6週間以上続く多関節炎を呈したもの
2. 6週間未満の多関節炎、単関節炎で次の各項のいづれか一つを伴うもの。
  - a. 虹彩炎
  - b. リウmaid疹
  - c. 朝のこわばり
  - d. 屈曲拘縮
  - e. 側頭顎関節症状 (開口困難)
  - f. 頸椎症状 (顎の運動障害)
  - g. 弛張熱 (spiking fever)
  - h. 心外膜炎
3. 下記疾患と確定したものは除く。  
 リウマチ熱、SLE、結節性動脈周囲炎、皮膚筋炎、強皮症、白血病、結核性関節炎、骨髓炎、川崎病、敗血症、尿路感染症
4. アレルギー性亜敗血症 (SSA) と診断されているものは、別項に記載して下さい。

表 2 JRA全国実態調査 (一次調査)

対象：昭和52年1月1日より12月末日までに診療した患児			
アンケートを出した病院 (厚生省より)	1,363		
解答のあった病院 (昭和53年3月16日まで)	502		(36.8%)
患児が1人以上いた病院	206		(41.0%)
患児が全くいなかった病院	296		(59.0%)
JRA患児数	男 187名		
	女 273名	計	460名
SSA患児数	男 23名		
	女 25名	計	48名

表 3 年令別患児数



III. 結 果

調査用紙は、昭和53年1月初めに発送され、昭和53年3月16日まで回答があった病院は、1,363 病院中 502 施設 (36.8%) であった。

表2の如く患児が1人以上回答があったものは206 施設 (41.0%) 患児が全くいなかった病院は296 施設 (59.0%) であった。

JRA患児は、男187名、女273名、計460名であった。SSA患児は、男23名、女25名、計48名であった。

次に年令別頻度をみると表3の如くであった。現在診療されている患児の昭和52年12月末日での年令である。やはり学童が最も多く、JRAであるが長期に診療している例もあり、16才以上も多くの例数がみられた。

また、今回、回答頂いた病院の住所による地域発生数と昭和51年11月の人口動態との割合をみてみた (表4)。地域性は殆んどみられないが人口10万対の粗有病率で見ると、沖縄、鳥取、鹿児島、群馬、長崎県が高く、山梨県、徳島県は0であった。調査病院数が限られており、回答率も低いので今後の集計を待ちたい。

なお、来年度は、回答のあった患児について、二次調査を行い臨床症状、検査所見、治療及び予後の調査をしたい。

表 4 J R A 表県別患児数

県	男	女	計	人口(千人)	対10万	県	男	女	計	人口(千人)	対10万
北海道	9	9	18	5,386	0.33	滋賀	4	2	6	1,000	0.60
青森	4	5	9	1,481	0.61	京都	0	5	5	2,410	0.21
岩手	0	6	6	1,393	0.43	大阪	6	18	24	8,175	0.29
宮城	1	6	7	1,978	0.35	兵庫	4	10	14	4,963	0.28
秋田	1	1	2	1,237	0.16	奈良	1	1	2	1,095	0.18
山形	0	1	1	1,225	0.08	和歌山	0	1	1	1,074	0.09
福島	8	3	11	1,980	0.56	鳥取	1	5	6	584	1.03
茨城	1	4	5	2,374	0.21	島根	1	2	3	770	0.39
栃木	5	2	7	1,714	0.41	岡山	4	8	12	1,822	0.66
群馬	8	7	15	1,774	0.85	広島	4	9	13	2,655	0.49
埼玉	4	7	11	4,951	0.22	山口	0	2	2	1,551	0.13
千葉	1	6	7	4,252	0.16	徳島	0	0	0	809	0.00
東京	44	46	90	11,558	0.78	香川	1	1	2	970	0.21
神奈川	12	17	29	6,468	0.45	愛媛	1	2	3	1,474	0.20
新潟	4	3	7	2,402	0.29	高知	1	1	2	813	0.25
富山	1	1	2	1,077	0.19	福岡	4	13	17	4,334	0.39
石川	0	2	2	1,078	0.19	佐賀	2	0	2	841	0.24
福井	3	2	5	775	0.65	長崎	5	8	13	1,574	0.83
山梨	0	0	0	785	0.00	熊本	2	7	9	1,728	0.52
長野	4	7	11	2,028	0.54	大分	3	3	6	1,197	0.50
岐阜	4	7	11	1,879	0.59	宮崎	2	1	3	1,099	0.27
静岡	4	7	11	3,333	0.33	鹿児島	4	12	16	1,733	0.92
愛知	7	6	13	5,939	0.22	沖縄	9	6	15	1,052	1.43
三重	3	1	4	1,631	0.25	全 国	187	273	460	112,420	0.41

## 若年性関節リウマチの臨床的研究

### (1) 臨床統計的観察

鹿児島大学医学部小児科 寺 脇 保 銓之原 昌  
馬 場 泰 光 小 山 幸 一

#### I. はじめに

若年性関節リウマチ（以下 JRA）における症状は多彩であり、Calabro らや Schaller らは3つのSubtypeに分けて考えている。すなわち Acute onset type (Systemic), Polyarticular type (Adult), Monarticular (Pauciarticular) の3typeである。これらの症状にはそれぞれ特徴があり予後も異なる。それぞれ原因や発症

機序が異なる可能性もある。

そこで、われわれも鹿大小児科で昭和37年から昭和51年までの15年間に経験した19例について症状分析を行い臨床統計的観察を行った。

#### II. 結 果

##### 1) 病型分類

われわれも Calabro ら, Schaller らの述べた特徴に

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

## 1.はじめに

本年度より「若年性関節リウマチの臨床的研究」班が組織されたので、まず本症の患者の実態を把握する目的で、全国的規模の疫学調査を行った。